

「吉野町つながる日本語教室の活動を広げる取り組みについて」

吉野町つながる日本語教室 加藤杏子

【吉野町の地域の課題】

- ・地域で日本語教育を行うこと(日本語教室の開設)の必要性への理解
- ・外国籍住民を支援することが地域社会を豊かにするものだという点に対する地域からの理解

【コーディネーターとしての課題】



まだあまり浸透していない

地域日本語教室を安定運営していくために、どのように人材を確保、育成し、運営体制を整えていくか

【吉野町つながる日本語教室の実施概要】

毎月第4土曜日 午前9時から12時まで

毎月第2・第4火曜日 午後15時半から16時半まで(個別ニーズに対応するための教室)

【課題解決に向けて考えたこと】

目的

行政が主体となって行う「吉野町つながる日本語教室」の安定運営の基盤を作る

目的を達成するために必要不可欠な手段

①行政の施策としての認知

②学習者の支援ができる人材の確保

③生活者にとって魅力的な教室内容

③日本語教室の場で①行政職員と②地域住民が

日本語教室を通じて外国籍住民と出会い、彼らの生活上の困りごとなどの現状に対する

理解と共感が得られる機会(場)づくり

【課題解決に向けた取り組み】コーディネーターの主な役割:広報・人材育成・教室プログラム作成

8月	防災テーマの教室開催/市内日本語教室検討委員会にて生活オリエンテーションに関する研修実施
9月	在留カード更新に必要な書類の申請の仕方と、ごみの分別を題材に扱う教室開催
10月	コロナワクチン接種、デマンドバス、吉野町社会福祉協議会(社協職員参加)を題材に扱う教室開催
11月	日本語教室でのユネスコ協会との交流(学習者の発信の場としての活用)
12月	教材請求による郵便局への地域日本語教育の広報 市内日本語教室検討委員会で生活オリエンテーションの内容を揃えるための確認
1月	成人式の機会を利用しての若い世代へのサポーター募集の広報 地域の病院の協力を得て病院受診のテーマについての日本語教室実施
2月	日本語教室サポーター養成講座×職員研修実施 地域のスーパーの協力を得て、買い物のテーマについての日本語教室実施 吉野町社会福祉協議会の「ふれあい郵便」事業への日本語教室学習者紹介、マッチングの要請

①日本語教室庁内検討委員会*を通じた行政職員からの理解と共感を得る取り組み(予算確保)

- ・外国籍住民に対する生活オリエンテーションの内容や、その伝え方を考えてもらうために、日本語教室にて実際に各課から情報提供をする機会を設けた。
- ・町職員が日本語教室での情報発信を考えるにあたり、外国籍住民が言葉や文化の壁に苦勞しているということ、具体的な例を挙げて伝え「そういう視点では考えたことがなかった」という言葉を引き出すなど、各々が担当する業務と地域日本語教育の関りに気付く、教室の取り組みに対する理解を深めるための支援をした。
- ・担当課(生涯学習課)の職員が予算を確保するための業務について、現状把握や今後の教室運営の見通しを立てるために必要な情報提供をし、運営方法について共に話し合いを重ねることによるサポートを行った。実際に町職員が教室で外国籍住民と向き合い、地域日本語教育の必要性を実感することにより、町の施策として認知する気づきと学びを後押しするとともに、施策の具体化のために必要な知識と体験が得られる様、教室プログラムを構成した。

*生涯学習課(地域日本語教育担当課)・教育総務課(学校教育)・総務課(防災)・町民税務課(保険・税金・在留資格更新関連・人権相談)・暮らし環境整備課(生活ごみ)・長寿福祉課(健診等保健関連福祉)・協働のまちづくり推進課(公共交通・自治活動)からなる委員会

②地域住民からの理解と共感を得る取組み(広報・人材育成)

- ・通信やチラシ配布などによる教室の周知(吉野町公民館、公民館サークル、吉野社会福祉協議会、吉野ユネスコ協会、外国人材を雇用する地域の企業、郵便局、病院、スーパーなどの協力)
- ・チラシ配布の際には、 $+α$ (教室の存在意義や魅力)の説明を加える周知を行い、地域での地域日本語教室の取り組みに関する理解を得られるよう努めた。
($+α$ は相手によって変えて伝える工夫が必要であり、コーディネーターとしての腕が試されると感じた。)
- ・新聞に掲載されたことで教室への問合せや関心を寄せる人が増えた。
(取材対応は教室運営に影響があり気を遣うが、それでも広報の手段として活用する重要性を感じた。)
- ・地域の方々に支援者として実際の教室に入り、内容を知ってもらうことで周囲の理解を得て、応援してくれる人や核となる人材の広がりが出てきている。
- ・教室が目指す方向性や支援に必要な情報を教室運営側(行政職員・日本語教師・中心となる支援者など)で共有するために、教室後に学習者の感想や、学習者支援に必要な情報や意見を交換する場を設けた。

③生活者としての外国籍住民にとって魅力的な教室内容

- ・実際に生活の中で活かせるよう、教室の外へ出て学習者が一人で行動できるところまでを想定。
→地域の郵便局など、関係する場所からの教材調達や、地域の病院での教室参加者の受け入れを依頼した。
- ・教室に来るモチベーションを喚起する仕掛けづくりの手段として、個々の学習者の関心事によって教室外にも地域社会との関りを持てるよう、教室を通して地域へつないでいくことを考えた。
→書道サークルへの参加・社協のふれあい郵便事業との連携・就職活動支援・地域新聞取材対応支援など

↓結果

自然と教室の主旨や必要性を地域の人々にも理解してもらえる流れができた

【地域日本語教育コーディネーターとして大切にしたい視点】

地域日本語教室の活動を、地域全体が抱える課題の解決手段の一つとして俯瞰的に大きくとらえる視点